

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-13-3/5)

目 的

わが国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

1. 世阿弥自筆能本等の詳細な調査を行い、世阿弥の作曲技法について一定の成果を得た。成果は第21回楽劇学会大会、第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会などで公表した。
2. 能楽学会の企画に参画し、世阿弥作曲による《四季祝言》《敷島》の音楽復元を行った。成果は2014（平成26）年5月刊行予定の能楽学会機関誌で発表される。
3. 工芸技術に関して、染織技術を支える選定保存技術についての調査を行った。原材料については熊本県日田市、栃木県鹿沼市、群馬県岩島地域において麻の栽培技術と麻剥ぎに関する調査を実施し、道具に関しては結城紬の機製造技術や刺繍針製造技術に関する聞き取り調査を行った。また、江戸時代初期及び中期における染織関連文献から染織技術に関する項目について整理を進め、成果を報告書に掲載した。
4. 10月5日、東京国立博物館平成館大講堂において「昭和初期上方落語の口演記録」と題する第8回無形文化遺産部公開学術講座を行った。
5. 連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録をあわせて14席作成した。また、近年ではほとんど上演されなくなっている正本芝居噺（道具入り）について、林家正雀師による実演記録を2席作成した。

論文

- ・菊池理予「染織技法の分業に関する研究序説」『無形文化遺産研究報告』第8号 東京文化財研究所 pp.1-21 14.3

発表

- ・高桑いづみ「世阿弥作《四季祝言》《敷島》の復元」能楽学会第12回大会 13.5.26
- ・高桑いづみ「[上ゲ歌] 形成試論」楽劇学会第21回大会 13.7.14
- ・高桑いづみ「実践としての謡—音楽としてのおもしろさはどこにあるのか」京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター伝音講座 13.11.27
- ・高桑いづみ「くり返すということ—音楽の「かたち」と変化する伝承」第37回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 14.1.10
- ・飯島満「東京文化財研究所所蔵「特殊再生装置を要する音盤」第8回公開学術講座 13.10.5
- ・菊池理予「染織技術を守るということ—文化財保護という立場から—」大妻女子大学創成工房 13.12.13

研究組織

○石崎武志、高桑いづみ、飯島満、菊池理予、佐野真規、橋本かおる（以上、無形文化遺産部）